# 空港臨海部グランドビジョン2030改定(プロジェクト等の案)について

交通臨海部活性化特別委員会 令和3年3月3日

まちづくり推進部 資料17番

都市計画課 所管

# 空港臨海部の将来像(案)及び基本方針(案)

庁内検討委員会及び専門部会での検討、新型コロナウイルス感染症の影響、地域との意見交換等を踏まえて、以下のとおり2040年における空港臨海部の将来像(案)及び基本方針(案)を以下のとおり整理した。

### ■将来像(案)

### 将来像1

開発、生産、廃棄・再生産の全工 程において、卓越した技術・能力を 有する企業・技術者が交流・挑戦 するとともに、工程の自動化が進み 高い付加価値と産業の継続性を生 み出す場となっている。

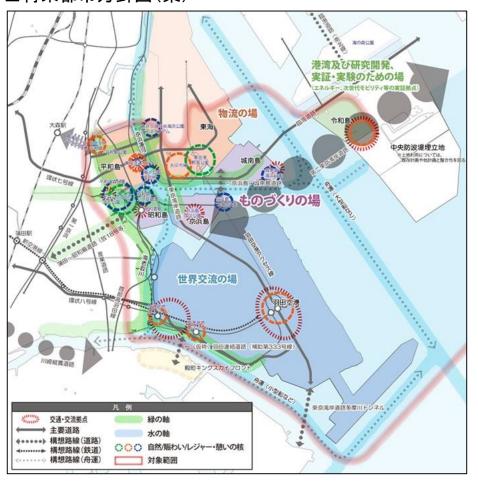
### 将来像2

都市部において貴重な自然資源 (緑・川・海) やスポーツ・アート拠点 として、余暇の充実や健康維持に 役立つ、区民・来街者・働く人に親 しまれるエリアとなっている。

### 将来像3

公共交通や物流輸送の自動運転 自転車専用車線等が発展。多様 な交通手段により、東京湾岸の物 流幹線網の一翼や、内陸部との快 適な交通網を担う。大規模災害時 には、復興を支える軸線となっている。

## ■将来都市方針図(案)



# ■基本方針(案)

# 基本方針① 高度な産業の集積拠点

### ■分野別方針 (産業)

- 製造業をはじめ、特有の高い技術力 を活かす企業の成長促進。
- 最先端技術を活かし、新たな挑戦を 試みる企業誘致・育成
- 内陸部・都心や海外との連携、大手 企業やベンチャー企業等との交流・協 業・挑戦を促進し、継続性の高いもの づくり・研究開発の場を目指す。
- 国内外の技術者を惹きつける多様な 働き方の実現

### (土地利用)

- ものづくりを主体とした土地利用の促
- 研究開発、試作製造、実証実験など の機能を促進する土地利用誘導

# 基本方針② 人の活動と自然の調和

### ■分野別方針 (自然環境・レクリエーション)

# ● 都心における希少な公園・緑地・水 辺、道路空間等のオープンスペースを 活かし、区民・働く人には憩いの場とし て、来街者には多様なアクティビティを

体験できる賑わい空間を創出

● エネルギーのスマート化による低炭素・ 脱炭素の推進

#### (観光)

- ●「食」や「産業資源」等の観光コンテン ツの創出・活用
- 舟運等による新たな観光ルートの形 成と羽田空港利用者の取り込み

アとなる。

# 基本方針③ 次世代のインフラ整備

## ■分野別方針 (交通)

- 空港臨海部と近隣道路ネットワークの 再構築・強化
- 最新技術(自動運転等)を活用し た公共交通サービスレベル、配送サー ビスの向ト

### (防災)

- 大規模災害時に備える復旧・復興拠 点の形成
- 「● エネルギー自給率の向上と大規模災 害・感染症発生時のBCP強化を兼 ねる柔軟性・冗長性を備えたまちに

### (ソフトインフラ)

- 交流・協業を円滑化するビジネスコ ミュニティの構築
- 新技術の社会実装を加速する法整 備·規制緩和

軽に足を運び、周遊する楽

しみが生まれる。

# 2 将来像の実現に向けたプロジェクト (素案)

基本方針(案)に基づき、空港臨海部の将来像の実現に向けたプロジェクト等について以下の素案を作成した。今後、庁内検討委員会及び専門部会等の意見を踏まえて検討していく予定である。

基本方針(素案)	プロジェクト(素案)	具体的取組(素案)
基本方針①: 高度な産業の集積拠点	1.ものづくり産業拠点整備プロジェクト	生産財技術・製品開発センターの新設、低未利用地の産業活用など
	2.産業競争力強化プロジェクト	既存企業の技術活用・事業継承制度の創設、新規立地企業誘致のための支援・規制緩和など
	3.働く場の魅力化プロジェクト	多様な就業環境の整備、就業者同士の交流環境の整備など
	4.次世代テクノロジーの実験場整備プロジェクト	IoTスマート工場、テストフィールドの整備、技術・暗黙知のデジタルデータ化の取組促進など
基本方針②: 人の活動と自然の調和	5.海と緑のレジャー環境整備プロジェクト	公園等の多世代利用のための環境整備、民間活力を利用した公園の賑い創出など
	6.観光コンテンツ創出・活用プロジェクト	工場・倉庫等既存資源の多面的活用、景観スポットの整備、周遊ルート整備など
	7.脱炭素・低炭素化の推進プロジェクト	再生可能エネルギーの導入促進、次世代エネルギーインフラの整備支援など
		区民・企業と連携した希少な自然環境の保護、再生促進、グリーンインフラの整備など
基本方針③: 次世代のインフラ整備	9.道路ネットワーク強化プロジェクト	東西軸を円滑につなぐ道路空間の再配分、新たな道路整備、アクセス強化、交通渋滞緩和など
	10.新・道路システム実現プロジェクト	新たな交通システムに対応できる道路空間の再整備、拠点施設の整備など
	11.交通手段の多様化・周遊性向上プロジェクト	Maas等ソフトインフラの整備、水上交通システムの構築、道路空間における法整備や規制緩和など
	12.拠点機能強化プロジェクト	モノレール等の駅周辺整備、交通結節点(防災機能も含む)の新設など

#### プロジェクトの相乗効果のイメージ 強い産業 活力のある空間 民間活力等により公園や水 土地の活用や技術者の交 辺空間に賑わいが生まれ、 流が進み、新たな企業の立 区民・来街者働く人にとって 地や起業など、空港臨海部 憩うことができ、緑や水辺な の産業が活性化すると共に 産業競争力が向上する。 どの自然と触れ合う環境が 生まれる。 強靭なエリア アクセスの強化 多様な交通手段の発達、 新たな道路の整備や自動 再生エネルギーの導入等に 運転などの次世代交通シス より、大規模災害時の復興 テムにより、空港臨海部へ の拠点となると共に災害時 のアクセスが改善され、物流 や感染症発生時も経済活 輸送が円滑になると共に気 動が継続できる強靭なエリ